

令和五年度三段以下審査会（9月18日）審査員講評

教士七段 高木 得二

まず、当日、早朝から準備に当たっていただいた部会事務局及び係員の皆様のご尽力に感謝申し上げます。

初段、二段の審査では、技がこなれていない（流れが悪い）方もおられましたが、三段ではこなれを感じられ安心しました。

初段から三段までの審査では、①正しい着装と作法 ②正確な抜き付け、切り付け ③正確な血振り、角度 ④正確な納刀、に特に留意して行われます。①は、受審者の日頃の心掛けを、④は基本がどれだけ身に付いているかを見ると言うてよいと思います。常に、これらの点を意識して稽古に臨んでください。

それでは、審査を通して感じたことを、これからの稽古の参考としていただきたく申し上げます。

着装、礼法についてです。着装では、襟が乱れている、袴が短すぎる、袴が後ろ下がりになっている等の方がおられました。

礼法では、足を引いて座る、鐙に掛ける指が違う等の方がおられました。「全日本剣道連盟居合（解説）」（以下、教本という。）を読みながら見直してください。きっと気付きがあるはずです。

指定技は、各段共通で、一本目 前、三本目 受け流し、六本目 諸手突き、九本目 添え手突き、十本目 四方切り でした。

五本を通して気になったのは、

- ・鞘引きが十分でない
- ・体軸がぶれる

方が多いことです。

鞘引きが不十分では、抜き付け、抜き打ちに鋭さがでないだけでなく、納刀もスムーズにできません。また、体軸がぶれては十分に切れません。今後の稽古において留意してください。

個々の技で気が付いた点を申し上げます。

一本目 前 振りかぶった切っ先が水平より下がらないよう注意してください。

三本目 受け流し 敵の渾身の一刀を受け流すのですから、しっかり体を囲ってください。

六本目 諸手突き 突きに威力の感じられない方がおられました。腰で突くという意識で稽古してみてください。

九本目 添え手突き この技でも腰で突く意識で稽古してみてください。

十本目 四方切 柄当ての鋭さが不十分な方がおられました。工夫してください。

最後になりますが、稽古回数を可能な限り増やし、師の教えを真剣に聞き、教本を何度も読み返して工夫されれば、必ず目標を達成することができると思います。皆様のさらなる精進に期待しています。